

第5回宮崎海岸市民談義所 議事概要

日時：平成21年10月26日(月)

場所：佐土原町総合文化センター

事務局より開会の挨拶、国、県、市の出席者の紹介を行った後、市民連携コーディネーターの進行により議事が進められた。

まず、事務局より「談義所の役割、談義のルール等」、「前回実施したアンケートの結果」、「台風14号、18号による宮崎海岸の状況変化」について説明を行い、その後、宮崎県自然環境課より「保安林の被害への対応」について、続けて、事務局より「平成21年度の養浜実施計画」について説明を行い、質疑応答を行った。

その後、市民から『宮崎の海岸をみんなで美しくする会』の活動の報告があった。

質疑、談義の内容等は以下の通り。

～質疑、談義の内容～

【第6回宮崎海岸侵食対策検討委員会の報告】

(1)台風14号、18号による宮崎海岸の状況変化

参加者：雨量のデータはないのか？委員会でも、台風14号と台風18号を比較すると河川からの供給土砂量の差がわかるのではないかという発言があったと思う。

コーディネーター：台風14号は雨が降らない状況で波が来たので、波だけの影響を捉えやすいデータになると思われるため、データを整理しておくようにという指摘があった。雨量についても、波などと併せて整理するようにという指摘があった。

参加者：今年は夏に雨が少なかったのでダムが満杯になっておらず、台風18号の際も雨による海岸への影響はあまりなかったのではないかと感じている。

(2)保安林の被害への対応

(3)平成21年度養浜の実施計画

自然環境課：台風14号、18号により保安林、自転車道への被害が生じており、対応が必要と考えている。クリーンパーク裏は、林帯幅が狭く、背後に保全対象となる重要な施設が迫っている。一方、動物園の北側は、侵食傾向にあるが被害の程度も比較的小さくまた林帯幅も広い。クリーンパーク裏は傾斜護岸を設置することを検討しているが、動物園北は、国（海岸サイド）と連携して養浜することも視野に入れて、経過を見ることを考えている。

コーディネーター：事務局から委員会での議論を紹介して欲しい。

事務局：平成16年の保安林災害への対応の際は、物理的に砂浜の面積を大きく減らす緩傾斜護岸でなく直立に近い傾斜護岸にして前浜を残すよう配慮がなされたこと、今回の対応でセットバックはできないのか、少しでも自然を残すように工夫ができないか、ということ、前浜を残すだけでなく、背後地も含めて自然を残すことを考えるべき、と

ということ、浜崖の位置を監視しながら対応していくことも考えていくべき、ということについての議論があった。また、養浜については、ウミガメに配慮して滑らかな断面にしてほしい、という意見があった。

コーディネーター：今回の災害対応のような短期的な対応は、長期的な対応も見据えて考えなければいけないという議論があった。また、出来るだけ自然豊かな海岸を残すという方向性は一致していると思った。動物園の北側の保安林が被災した箇所で、保安林サイドがすぐには護岸を作らず、海岸サイドと連携して養浜することも視野に入れて、経過を見るという対応は、委員に評価されていたと思う。

参加者：委員会において、緩傾斜護岸を作る費用としては、宮崎県からは1億6千万円程度と推定されるとコメントがあったと思う。

参加者：委員会では、宮崎港の浚渫は5年で10～11万m³と言っていたと思うが、一方で、港に年間20万m³の土砂がたまっていると説明されている。そうすると、5年間で90万m³の土砂が宮崎港付近に溜まっていることになるが、今も港に溜まっていると考えて良いか。また、港に溜まっている土砂をきちんと把握しないと、土砂がどこかに持っていかれてもわからない。

港湾課：宮崎港については、港内全体を測量しており、今も宮崎港付近に溜まっていると考えて良い。

事務局：年1回、小丸川から宮崎港までの海底地形を測量しており、その結果を見れば港に溜まっている量は把握できる。ただし、沖側への流出量については、測定の限界もあり、はっきり分からない部分もある。

参加者：養浜は昨年度と同じ量を行うのか。

事務局：養浜箇所として4箇所を予定していたが、今回の台風による災害を受けて急遽6箇所に増やしたこともあり、養浜量ははっきりと決まっていない箇所が多い。一ツ瀬右岸は2万m³の予定、動物園沖の海中養浜は合計7.2万m³の予定。また、石崎浜は三財川からの土砂の供給状況にも左右されるが2.3万m³程度の予定。動物園裏については、保安林被災箇所と動物園裏（昨年度実施箇所）で実施予定であるが量は決まっていない。また、クリーンパーク裏の保安林被災箇所についても量は決まっていない。

参加者：いつ頃、量が決まるのか？

事務局：今はお答え出来る状況にない。確定したらお知らせする。

参加者：港に堆積していると想定される90万m³は養浜に使えるのではないか。

参加者：海岸周辺の住民としては、港の浚渫はして欲しくない。浚渫をしないことによって航路が埋まって港の機能が失われてもそのまま放っておいて欲しい。浚渫をすることによって、北側の侵食が進んでいる。

参加者：三財川から土砂を持ってくるということだが、宮崎海岸の砂浜は、もともと大淀川から供給された土砂による砂浜だと思うが、大淀川からの土砂を持ってくるということは検討しないのか。

事務局：宮崎海岸においては、まったく関係ないところから土砂を持ってくるということはせずに、もともと海岸を形成する土砂を供給していたと思われる川から土砂を持ってくるという考え方で養浜実施計画は作成しており、大淀川も三財川も候補のひとつである。また、他事業の発生土砂を有効活用することを基本としており、その時々で発生する土砂のうち、運搬コストなどを考えながら決めている。

参加者：宮崎海岸の侵食は南から進み、それは動物園辺りまでの範囲の話かと思っていたが、最近では北の方、大炊田海岸のほうから急速に侵食が進んでいると感じている。北と南と、両方向から侵食が進んできているというのは、それぞれ独自のメカニズムがあるのか。

事務局：侵食について北側から急速に侵食が進んでいるというデータは持ち合わせていない。ところどころで侵食の度合いが違っているとすれば、養浜の影響ということも考えられると思う。

コーディネーター：追跡調査をして傾向が変わっていれば、検討をしていくことも考えないといけない。

参加者：委員会の委員の名前や所属・経歴は公開されているのか？

事務局：委員の氏名および所属は、公開している。

参加者：セットバックの話であるが、委員会では、現在の状況を自然のセットバックとみなして、現在のラインで護岸を作る事は考えられないのかという意見があった。委員会の場では、それに対する答えはなかったと思うが、宮崎県としては、委員が発言したセットバックについて、今後、検討していくのか？

参加者：クリーンパーク裏の災害は、隣接した護岸を作ったことが原因ではないのか。災害の原因が護岸であるのであれば、工事はやめるべき。また、コンクリートでなく木材で対応すべき。

自然環境課：はじめに、保安林の役割を説明させて頂きたい。保安林は県内の森林のうち水を貯えるとか潮風からまもるなどの公益的機能が特に高いと思われる重要なものについて農林水産大臣や県知事が指定したものであり、今回被害に遭った宮崎海岸の保安林は、潮害防備保安林に指定されている。保安林は公益的な機能が高く重要だということで指定されているので、災害が生じたら復旧するようにしている。よって、このような目的で指定されている保安林をセットバックすることは基本的には考えられない。

コーディネーター：保安林が被災したら元に戻すというのが背後地を保全・保護するという観点から必要だという「論理」があるというのはみなさんよくご存知だと思う。みなさんの意見は、砂浜を守るようなやり方で、保安林というものをもう一回考え直すことができないかというものであると思う。長期的には自然が残るような海岸が欲しいという中で、この「論理」そのものが問われており、長期的なスパンで考えた場合に、この「論理」をもう少し総合的な観点から考えないといけない、というのが談義所の皆さんの持たれている思いだと思う。

自然環境課：クリーンパーク裏については、平成16年の台風16号で被災して傾斜堤を設置した。今回の被災箇所については、これまで、前浜も充分にあり、保安林としての機能を充分果たしていたが、今回の台風14、18号の異常な波浪によって、強度的に弱い部分が侵食されたものだと考えている。

コーディネーター：これくらいの波浪は頻繁に来るので、「異常」と一言で片付けるのは難しいのではないかと。

参加者：自然環境課はこれまでの談義所、勉強会に出席していないから今のような発言があったのではないかと。宮崎県自然環境課も宮崎市も談義所の議論に参加し、連携していくべきである。

参加者：勉強会で砂は一度沖にいてもまた岸に戻ってくるということを学び、海岸林と砂丘は一体となってひとつの環境を作っているということを知った。私は、海岸林のセットバックを強硬に主張しているわけではなく、砂浜侵食という問題に、海岸林を担当しているところの方も参加して、一緒に考えて欲しいということを行っている。

参加者：今回の台風で浜崖ができています。地元の住民は、なんとか早く対応して欲しいと思っている。しかし、談義所に来て何か言っても無駄だと思って参加者が増えない。このことについては前向きに検討して欲しい。

参加者：台風で侵食された砂浜は戻っていない。地元の人は自然のあるなしに関係なく安全を確保して欲しい、そのためには自然がなくなっても構わないと思っている。ただ、コンクリートの護岸が台風のために倒壊しているので、なんとかして欲しいというのが本当の気持ちである。また、保安林は確実に背後地を守っており、保安林がないところは地面が掘れて海水が溜まっている。

コーディネーター：立場によっていろいろな思いの人がいるので、情報を共有し合い、お互いの意見を尊重し合おうということによってやってきた。自然を守ることが第一義でないとしても、地元の人たちも、安全を確保した上でなら自然があったほうが良いと思うのではないかと考えていたが、その認識は間違っていないか。

参加者：間違っていない。

参加者：私は防災士でもあり、地元のための役を担っている。私は、きれいな白い海岸もカメも鳥も工事も好きですが、命が大事だと思っている。地元は不安に思っている。

参加者：みなさんの苛立は国交省と宮崎県の足並みがそろっていないこと。足並みをしっかり揃えてもらいたい。林野庁と協議する中で、セットバックの提案などは宮崎県としてできるのか。

コーディネーター：委員会で私からも「何か工夫の余地はないのか」と質問したが、それについては宮崎県さんが持って帰られて検討されているという状況だと思っている。

自然環境課：現在は林野庁に災害の報告をしている。隣接のH16年の災害対応と同じ傾斜護岸での復旧をしたいというところまで話している。

コーディネーター：林野庁と協議されるときに、宮崎海岸で談義所をやっているということ、国交省の侵食対策の状況、セットバックなど市民の思いなどを林野庁にも伝えて頂きたい。

自然環境課：保安林のセットバックの話は厳しいと考えるが、林野庁との協議の際に、談義所での議論をきちんと林野庁に伝えていく。

コーディネーター：足並みが揃っていないというのはごもっともな批判だと思いますが、今回、これだけたくさんの方の行政の人が来ているということ一度評価した方が、これから長く談義所を続けていく上では良いのではないかと考えている。

事務局：地元の方からの、早急な対応が必要という意見については、委員会でも話をしたが、養浜や養浜以外による対策について、技術分科会で早急に検討していきたい。また、国と県で足並みがずれているというご意見については、今回の保安林の被災への対応についても、動物園裏では、保安林サイドと海岸サイドで連携した形での対応を検討しており、少しずつではあるが連携を進めていっているつもりである。また、台風の砂が戻ってくる、または来ないという意見については、宮崎海岸は長期的には侵食が進行していることは事実であり、一方で、短期的に見れば、砂は沖にいたり、岸に

戻ってきたりというのを繰り返している。それぞれの方がとらえる時間スケールが違うだけで、それぞれの方が感じられていることは、それぞれ、正しいと思っている。最後に、今回から事務局以外の行政機関の自己紹介を行ったので、はじめて来られたと思われたかもしれないが、県の自然環境課さんは、前回の談義所から出席されている。

コーディネーター：反省すべきところもみえるが、良いところも見えてきている。そういうことを評価して、長く続けていきたい。

【『宮崎の海岸をみんなで美しくする会』の報告】

発表者：

- ・『みんなで美しくする会』は市民自身が「できる」「する」会として活動している。また、行政の皆さんがきれいな砂浜を取り戻すエネルギーになればと思って活動している。
- ・『みんなで美しくする会』では、市民によるマナーづくり、マナーを広く皆さんに普及していくことを目指している。
- ・第1回会合では、石崎浜で、ゴミ投棄、車の轍、貴重な植物などの状況を現地で確認した。また、ワークショップを行い、課題・検討にあたり配慮すべきこと、その他情報等についてとりまとめ、7つのテーマを設定した(車、ゴミ、サーファー、釣り、松林、ウミガメ、貴重な動植物)。
- ・進行役は、1回1回市民が交代で担う。今回は、海岸への車の乗り入れについて議論する予定。結果は談義所で報告する。

以上